

私学助成署名推進ニュース

全国私立学校教職員組合連合
No.53 2020年2月25日(火)

「誰もが『教育の無償化』を口に出来る時代になった。みなさんの運動のおかげです」

2019年度 私学助成全国署名
412万6532筆

2019年度 私学助成全国署名 提出 院内集会

参加議員あいさつより



満杯の会場

2月20日、東京都千代田区の参議院議員会館で開催された「2019年度の私学助成全国署名提出集会」には、全国20の都道府県から高校生・大学生3県4名、父母11都道府県31名、教職員36名の計71名が参加しました。また国会議員関係者は6政党+無所属から議員本人38名、代理47名の85名が参加されました。

定員の倍の人数で満杯となった会場の熱気に参加された議員さんも圧倒されていました。そうした中、主催者代表あいさつで、鈴木共同代表は「国の制度拡充で無償化は前進したが、各自治体がどう対応するか課題。全国のつながりで自治体の拡充を実現させたい」と述べました。同じく永島共同代表は、この日までにすすめる会事務局に届いた自治体の拡充を反映させた都道府県別一覧表をもとに「東京、福井のように単独予算を上乘せた自治体、上乘せはしなくても浮いた予算で制度拡充をした自治体がある一方で、新潟、香川のように2020年度何の制度拡充も行わない自治体もある。このままでは自治体格差が拡大する。「私学の無償化」はまだ折り返し点。真の私学の無償化を実現させよう」と訴えました。



鈴木共同代表 永島共同代表

このように「超党派で国会議員が集まる場をつくってくださりありがとうございます」

本人ご到着順でごあいさつをお願いしたため、10名の議員さんが残念ながらご校務で退席されましたが、28名の議員さんから「1分」という失礼な条件ながらごあいさつを頂戴しました。見出しの内容は、ごあいさつの中で議員さんが発言されたものです。このひと言に限らず全国のみなさんが、ご多忙な時間を割いて、私学の学費実態をていねいにお伝えしてきた事が反映したごあいさつが続きました。高校生フェスティバル出身の議員さんが「ここまで20年かかってしまったのは自分の力不足。真の無償化までいっしょに頑張りましょう!!」と発言されたり、香川選出の議員さんが「ネコノビを許さないよう県とも共同して改善をする」と発言され、同じくネコノビがあった新潟選出の議員さんが「放漫財政のしわ寄せを子どもたちに押しつけるのは許せない」と発言されるなど、私学助成運動と会場参加者の思いを理解したごあいさつが続きました。



上段左から 堀井議員(自・衆)、真山議員(立・参)、加田議員(自・参)、伊藤議員(共・参)、城井議員(国・衆)、古賀議員(国・参)、磯崎議員(自・参)、関議員(自・衆)、三宅議員(自・参)小沼議員(立・参)、
中段左から 今枝議員(自・衆)、金子議員(無・衆)、吉良議員(共・参)、芳賀議員(無・)、山添議員(共・参)、福島議員(社・参)、森山議員(立・衆)、打越議員(立・参)、菊田議員(無・衆)
下段左から 泉議員(国・衆)、斎藤議員(立・参)、赤松議員(立・衆)、松田議員(立・衆)、吉田議員(立・衆)、近藤議員(立・衆)、阿部議員(立・衆)、神谷議員(自・衆)、畑野議員(共・衆)

<政党名省略…「自」：自民党、「立」：立憲民主党、「国」：国民民主党、「共」：共産党、「社」：社民党、「無」：無所属>

参加全議員関係者名は推進ニュース52号に掲載しています。それに加えて「里見隆治 議員(愛知・参議院・公明党)」の秘書さんが集会終了時にご到着されました。



発言する高校生と聞き入る国会議員さん

「教育の無償化は大人の役割」という議員さんのごあいさつに安心した(参加高校生)

議員さんのごあいさつ後、参加した高校生2名と父母が、残られた5政党+無所属の議員さんを前に、「私学の無償化」についての率直な思いを発言しました。高校生の1人は「高校生が学ぶ事についてお金の心配をしなければならないのはおかしい。議員さんが「大人の役割」と発言してくれたことに安心した」と述べました。またもう1人の高校生は「高校進学の時『いいなあ私学に行けて』と言われた」経験を挙げて「学費問題はすでに子どもに分断を生んでいる。何とかしてほしい」と訴えました。また、富山から初参加の父母は「こうした全国のつながりがあると知り、参加した。学費負担を心配せずに、子どもが学びたい学校で学べるようにしてほしい」と訴えました。こうして全国の私学関係者の思いが込められた412万6532筆の署名の議会提出が宣言されました。



発言する富山の父母

